

教育訓練給付金指定講座

□HBMS施設



講義室

全教室にプロジェクター、大型スクリーン、講義収録システムを設置。

図書室

ビジネス関連書籍が多彩に揃う、静かで落ち着いたアカデミック空間。

学生サロン

仲間とのディスカッションや自習など自由に活用できるスペース。

大学院生研究室

パソコンを使って個人作業に取り組める環境を整えています。

□学内施設



学術情報センター図書館

蔵書数30万冊を誇る、県内でも屈指の図書館。ラーニングコモンズも完備。

□学外施設



サテライトキャンパスひろしま

市中心部に位置し、公開講座やセミナーを開催。プレゼン練習などに使用できます。

HIROSHIMA BUSINESS AND MANAGEMENT SCHOOL

県立広島大学大学院 経営管理研究科

中国エリア唯一のMBAが取得できる
経営専門職大学院

2023

ACCESS



□JR 広島駅から

バスで 広島バス「31号線(翠町線)」にて「県立広島大学前(広島キャンパス)」下車…徒歩1分
市内電車で 「広島港」行き(5号線)にて「県病院前」下車…徒歩7分

□バスセンター(紙屋町)から

市内電車で 「広島港」行きまたは「宇品二丁目」行き(1号線または3号線にて)「県病院前」下車…徒歩7分

□八丁堀から

バスで 広電バス「12号線(仁保沖町)」にて「県立広島大学前(広島キャンパス)」下車…徒歩1分

□広島港(宇品)から

市内電車で 「広島駅」行き(1号線または5号線)または「広電西広島(己斐)」行き(3号線)にて「県病院前」下車…徒歩7分

お問い合わせ先

広島県公立大学法人 県立広島大学 HBMSマネジメント課
☎ 082-251-9726 ☐ mba-office@pu-hiroshima.ac.jp

県立広島大学
Prefectural University of Hiroshima

<http://mba.pu-hiroshima.ac.jp/ja/>
HBMS MBA 検索



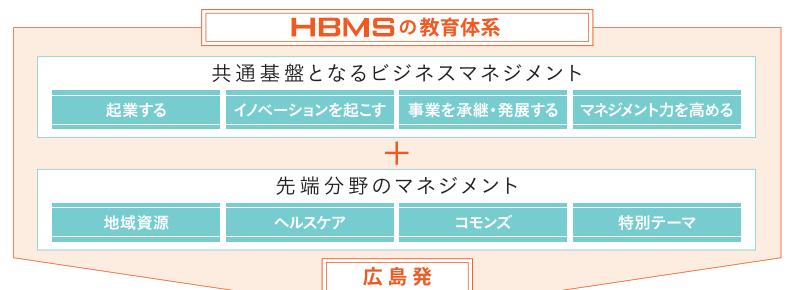
広がる。 そして、変わる。

HBMSでは、基礎となるビジネスマネジメント力をしっかりと身につけたうえで、現代社会に求められる先端的マネジメント力を培うことによって、MBAホルダーにふさわしい高度な専門性と卓越した実践力を発揮できる次世代リーダーを育てます。少人数のきめ細かな指導、多彩な仲間たちとの濃密な学びあいの2年間は、視野やネットワークそして可能性を飛躍的に広げます。その先には、想像を超えた自らの変化とともに、変化した自分が起こす組織、地域、世界の変化があります。



ミッションステートメント Misson Statement

HBMS(Hiroshima Business and Management School)では、「起業する」、「イノベーションを起こす」、「マネジメント力を高める」、「事業を承継・発展する」といったビジネスパーソンのニーズに応えたマネジメント力の育成に加え、社会の大きな変化を捉えた先端的マネジメント力の開発によって、日本の地域あるいは世界で求められる次世代型リーダーを育成、輩出することを目指します。



多様性と共有価値をマネジメントする
次世代ビジネスリーダーの育成



修了認定・学位授与の方針 Diploma Policy

本研究科では、「起業する」、「イノベーションを起こす」、「マネジメント力を高める」、「事業を承継・発展する」といったビジネスリーダーの共通基盤となる能力に加え、社会の大きな変化を捉えた先端的なマネジメント力を開発することによって、高度な専門能力と卓越した実践力を備えた次世代型リーダーの輩出を目指します。本研究科の教育課程において所定の修了要件を満たすなかで、上記の能力を涵養した学生に経営修士(専門職)の学位を授与します。

学位名称

経営修士(専門職) Master of Business Administration(MBA)

入学者受入れの方針 Admission Policy

本研究科は、創造的で活力のある経済社会を持続・発展させるために不可欠な、企業等組織の経営革新や新たな事業創造を絶え間なく実践していくビジネスリーダーを目指す学生を求めています。ビジネスリーダーを目指すにふさわしいチームリーダーを一定期間以上務めるなど、実務経験と社会経験(学生時代の活動も一部含まれる)を持つことを前提としています。次のような意思を持った社会人等の入学を想定しています。

- 》マネジメントの知識と実践力を高め、新たなビジネスを創造したい人
- 》イノベーションを起こし、広島から世界に発信したい人
- 》地域創生に向けて自ら企画し、リーダーシップを発揮したい人
- 》広く人脈を築くために、コミュニケーション能力を向上させたい人
- 》人生の可能性を広げるために、高い意欲を持って経営学を学びたい人

以上のような学生を選抜するために、「オープン入試」、「企業・自治体派遣」の各入学選抜試験において、選抜課題では、読解力、思考力、日本語力、論理力・表現力、着眼力・発想力・課題設定力と積極性を、口述試験では理解力・判断力、日本語力、論理力・表現力、着眼力・発想力・課題設定力と積極性を測ります。

教育課程編成・実施の方針 Curriculum Policy

本研究科は、修了認定・学位授与の方針に掲げる学修成果を達成するため、基礎科目、応用科目、専門科目、実践科目を編成します。各プログラムに必要な科目を段階的・体系的に配置し、講義・演習などの授業形態より、各科目の目標到達を目指します。

①基礎科目

当該科目に配置される授業科目は、経営系各分野の人材養成の基本となる授業科目です。

②応用科目

当該科目に配置される授業科目は、リーダーシップを発揮できる高度な専門能力を高めるための授業科目です。

③専門科目

当該科目に配置される授業科目は、多様性を活かしながら単体の企業だけでなく、地域、コミュニティとともに総合としての価値を持続的に高めていくマネジメント能力を養成します。専門科目は大きく4つの領域に分かれています。農林水産業を含む地域の自然資源のマネジメント力を養う「地域資源マネジメント」、人々の多様なニーズに応えた持続的な医療介護保障のマネジメントを学ぶ「ヘルスケアマネジメント」、インターネットを含めた共有の場(コモンズ)のありかたを学ぶ「コモンズマネジメント」に加え、専門的かつ先端的なビジネスやマネジメントを極めるための時代を捉えたテーマを取り上げる「特別テーマ」です。

④実践科目

当該科目に配置される授業科目は、ビジネスを具現化する力や、やり抜く力など、事業創造ができる能力を高めています。ビジネスプランを作成し、その実効性を検証することによって実践力の向上を図ります。学修成果の評価については、能動的な学修を促す手法を積極的に導入し、適正な学修時間を確保した上で、研究科案内・シラバスに配点割合をあらかじめ示した多面的な評価基準により厳正に行います。具体的には、授業で発展・向上をはかる「知識」、「分析力」、「思考力」、「事業創造力」、「実践力」について、判断する基準を各科目において設けた上で、開講中や期末に行うレポート・筆記試験等のほか、授業への能動的な参加度や貢献度を観察したり学生相互に評価せたりするなどの方法を用い、総合的に評価します。

ビジネスリーダーを輩出する教育システム

HBMSの特徴的な授業内容



授業科目一覧

4つの科目区分を設定し、実践的な教育を展開

基礎科目 14科目

経営戦略、マーケティング、人材マネジメントといった経営学の基礎を学びます。
「使える」経営学を身につけるため、講義形式に加え、ディスカッションを多く取り入れ、自ら考える力を育みます。

◆必修科目 ◇選択必修科目
①1単位科目 ②2単位科目 ③6単位科目

◆ 現代社会における先端的マネジメント	◇ アカウンティング ②	◇ マーケティングA ①	◇ マーケティング演習 ①	中四国経済 ①
◇ ファイナンス基礎 ①	◇ ファイナンスA ①	ビジネス統計 ②	ベンチャーの経営戦略 ②	◇ 経営組織と人材マネジメント ②
◇ 企業法務 ①	◇ 組織マネジメントとコンプライアンス ①	◇ 経営戦略 ②	多様な価値とファシリテーション ②	

応用科目 15科目

〈起業する〉、〈イノベーションを起こす〉、〈事業を承継・発展する〉、〈マネジメント力を高める〉を実現するために基礎科目をさらに深め、広げ、応用できる能力を高めます。さまざまな角度から応用力を鍛えるためグループワークを積極的に取り入れます。

マーケティングリサーチ ①	マーケティングリサーチ 演習 ①	マーケティングB ①	ファイナンスB ①	SME事業経営演習 ①
ヘルスケア情報のマネジメント ①	スマートビジネスのファイナンス ②	イノベーション戦略 ②	多様性と人材マネジメント ②	戦略法務 ①
上場とコーポレートガバナンス ①	戦略としての社会システムデザイン ②	サプライチェーンマネジメント ②	生産管理 ②	事業承継マネジメント ②

専門科目 21科目

〈地域資源マネジメント〉、〈ヘルスケアマネジメント〉、〈コモンズマネジメント〉の3つの先端分野に加え、社会のスピードにあわせアドホックに〈特別テーマ〉を設定します。多様性を活かしながら単体の企業だけでなく、地域、コミュニティとともに総合としての価値を持続的に高めていくマネジメント能力を養成していきます。

地域資源マネジメント	持続可能な地域資源マネジメント ②	アジア型環境ビジネス創造 ②	地域ブランド戦略 ①	デザインマネジメント ①	地域事業開発演習 ②
ヘルスケアマネジメント	医療介護経営序説 ①	医療介護の制度経営 ②	医療介護の事業経営 ②	医療介護のイノベーション ②	
コモンズマネジメント	社会イノベーション ②	共生社会の理念と実例 ②	社会的インパクトの評価 ①	地域における合意形成 ②	
特別研究A~H	特別研究A(グローバルビジネスマネジメント) ②	特別研究B(IoT社会のビジネス創造) ②	特別研究C(経営のリスクマネジメント) ②	特別研究D(マネジメントアカウンティング) ②	
	特別研究E(サービスマネジメント) ②	特別研究F(スタンフォード大学連携科目1) ①	特別研究G(スタンフォード大学連携科目2) ①	特別研究H(医薬流通のイノベーション) ②	

実践科目 2科目

ビジネスを具現化する力や、やり抜く力など、事業創造ができる能力を高めています。
ビジネスプランを作成し、その実効性を検証します。企業・団体等とも協力、連携して実施していきます。

◆プロジェクト研究1 ②

◆プロジェクト研究2 ②

※上記は令和4年5月末時点での情報です。今後、変更の可能性があります。

最新情報はHBMS専用ウェブサイトをご覧ください

基礎科目

【現代社会における先端的マネジメント】

現代社会における先端的マネジメントについて専任教員全員で行うオムニバス形式の授業です。先端的マネジメントの基本的な考え方、基礎的分野における先端的マネジメント、さらには本研究科が提供しているカリキュラムの4つの柱である地域資源、ヘルスケア、コモンズ、特別研究の最先端の知識を講義形式中心に学習します。

応用科目

【SME事業経営演習】

中小・中堅組織(Small and Medium sized Enterprises)が99%を占める経済において、地域におけるSMEの活性化は不可欠です。本演習では、広島県内のSMEの実態を把握し、SMEが抱える事業課題に対する解決策を研究していきます。さまざまな産業のSMEが存在する備後圏域で、現地視察を行い、ケーススタディ等による事例研究を行いながら、今後のSME事業経営を実践的に考えていくことを目的とします。

【多様性と人材マネジメント】

グローバル化は地域企業や中小企業を巻き込む形で進化しています。本授業では国際経営における人材マネジメントを多様な人材の管理、すなわち「ダイバーシティ・マネジメント」と位置付け、①国際経営の理論、②国際的人材管理の概要、③多様な人材のマネジメント手法に関して、理論的かつ実証的な考察を行います。

専門科目

【アジア型環境ビジネス創造】

アジア新興国・地域は、中国・インド・ASEAN主要4カ国・韓国・台湾など国・地域によって成長速度は異なるものの、先進国を上回る成長率の高さに注目が集まっています。各國・地域が、日本型の産業デザインとマネジメントによりそれぞれの抱える課題をどのように克服しているのか、さらには世界経済を牽引する潜在性について具体的な事例とともに実践を学び、各動向を分析します。

【医療介護のイノベーション】

わが国の医療介護は、少子高齢化の急速な進展、新型コロナウイルス感染症の拡大などにより大きな転換点に立たされております。このような状況下で政府は、新たな時代に対応した医療提供体制を構築するため、見直しを行っております。本講義では、これからの医療制度や医療提供体制のあるべき姿を探り、医療・介護施設、薬局、関連企業、さらには業界がどのように変化するかなどを様々な事例を交えて紹介するなどし、学びを深めます。

【地域における社会的合意形成】

地域経営に、企業、市民、NPOを始めとする多様なプレイヤーが参画するようになり、立場や価値観の異なる参加者の知見を地域課題の解決に生かす社会的合意形成のあり方が模索されています。本授業では、現代の地域経営に不可欠な「社会的合意形成」の方法論を学びながら、学生自らが社会的合意形成プロジェクトを企画・運営できる力を身につけます。

【グローバルビジネスマネジメント】

グローバル化の進展は、あらゆる産業に大きな影響を与えるとともに、戦略上の重要なテーマになっています。本講義では、グローバルビジネスを取り巻く環境変化を理解した上で、①企業、②市場、③調達・生産等におけるグローバル化について、事例とともにグループワークやプレゼンテーションを交え実践的に学習します。

【IoT社会のビジネス創造】

これから社会やビジネスを大きく変えていく可能性を秘めるInternet of Things「モノのインターネット」と呼ばれる技術を技術的に深入りしないように学びつつ全体像を理解してもらいます。また、IoTを利用したサービスの現状調査をした上で、実装や実現をイメージしつつIoTを利用したビジネスを考えさせてもらいます。

【サービスマネジメント】

社会変化に適応し、進化を続ける「サービス」の現場に密着した講義とワークショップにより、「サービス」の根源から先端に至るビジネスの実態とマネジメントの構造について把握し、ユーザーの行動変容の分析をとおして、多様な連携を伴った事業構想や時代をゆく戦略立案を行います。

社会人に対応した履修環境を実現しています



- 開講時間は平日の18時30分から21時30分までの2時限、土曜日は9時から19時30分までの6時限を開講
- 授業はハイブリッド(対面・オンライン)で実施 ※但し、オンラインでの受講は上限があります
- 夏期・春期の週末を利用して集中講義の実施



経営管理研究科長

横山 祢徳

Yoshinori Yokoyama

ビジネスとマネジメントの語源を調べてみると、ビジネスは「気遣い」、マネジメントは「馬を馴らす」、「何とかうまく扱う」という意味から始まったそうです。日常的に我々が行っている行動そのものですね。ということは大学や大学院で通常扱うような学問ではなく、「身体知」というべきものです。

頭で分かっただけでは十分でなく、体で理解し行動を伴うことが必要です。そして、明らかに賢い、センスのいい、そして人々が納得してくれるやり方があります。このようなやり方は「身体知」としての高度スキルを活用します。そういう高度スキルを訓練の継続を通じて身につけていくところがHBMSという「場」なのです。

図らずもこの「場」に参画することで、予想もしなかった新しい考え方、見方、やり方に出会うことになるはずです。そして、もっと大事なことは、HBMS以外では決して知ることのなかった人々に出会うことになるでしょう。HBMSは、このような新しく刺激的な「出会い」の場であり続けたいと思っています。

■専門分野

戦略マネジメント、社会システム・デザイン、組織デザイン、ファイナンス、M&A

■学歴・職歴

東京大学工学部建築学科卒
ハーバード大学院都市デザイン修士、MITスローン大学院MBA
マッキンゼーアンドカンパニー東京支社長

■主要著書

『組織——「動ける組織」のデザイン 25 のポイント』2020年、『社会システム・デザイナー組み立て思考のアプローチ』2019年、『デザインする思考力』2014年



ビジネス・リーダーシップ専攻長／教授

江戸 克栄

Katsue Edo

我々を取り巻く社会システム及環境は、多様にかつ急激に変化してきています。この変化に適応していくためには、新しい視点でビジネスや事業の発想をしていかなければなりません。

グローバル社会による「世界と日本」、地方創生における「都市と地方」、市場経済社会が生み出した「企業と消費者」、経営戦略や企業競争の結果としての「勝ちと負け」、製品やサービスの「品質と価格」。これらの2つの対立軸やトレードオフ関係は、今までのマネジメントでは当たり前のように使われてきました。「個人と組織」もその1つです。これからの時代は、「個人価値」や企業を含めた「組織価値」から第3の軸である「地域や社会の共有価値(コモンズ価値)」への転換が求められるようになってきています。

HBMSはこのような時代の中で、イノベーションにより常に第3の軸を追求し、新しい価値をコモンズ価値へと発展させることができるリーダーを育成することを目指し、多くの分野からの学生のためにプログラムを提供します。

■専門分野

マーケティング、マーケティング・リサーチ、地域ブランディング、防災マーケティング

■学歴・職歴

慶應義塾大学商学部卒業 慶應義塾大学大学院商学研究科修士課程修了
慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程単位取得退学
文化女子大学(現文化学園大学)専任講師、准教授を経て、教授

■主要著書・論文

『循環するファンシヨン—新しいデザインへの挑戦—』文化出版局、2013年(共同監訳・監修)、『戦略的マーケティング:レビュー、体系、ケース』芙蓉書房、2008年(部分執筆)



教授 安達 巧

Takumi Adachi

■専門分野

アントレプレナーシップ、イノベーション・マネジメント、コーポレートガバナンス、企業法

■学歴・職歴

博士(経済学、東北大学) & 修士(法学、東北大学)。会社及びコンサルティング事務所経営等を経て現職

■主要著書

『コーポレートガバナンスと監査と裁判所』ふくろう出版、2014年、単著。日本図書館協会選定図書
『コンプライアンス・ハラスメント事例研究一』ふくろう出版、2018年(編著・共著)
『不正会計とわが国の投資家保護』ふくろう出版、2020年(単著)
『アントレプレナーシップと戦略経営—ビジネススクールでの実践—』ふくろう出版、2021年(監修・共著)

一般事業会社経営(代表取締役社長)や税理士資格も活かした経営コンサルティング事務所経営(代表)の経験があり、経営「現場」(実務)に通じています。また、法律にも詳しいです。実効あるコーポレートガバナンスやコンプライアンスがイノベーションを促進する役割を果たすことを熟知したうえでイノベーション人材(アントレプレナー)育成を行っています。



教授 遠藤 邦夫

Kunio Endo

■専門分野

病院及び薬局経営、医薬品流通、製薬産業

■学歴・職歴

矢野経済研究所入社
文部省統計数理研究所委託研究員を兼務
矢野経済研究所ライフサイエンスユニットフェロー

■主要著書・論文

『看護経済学』法研(2002年9月、共著)
その他、矢野経済研究所から医療等に関するレポートを多数執筆

医療について川上(行政)から川下(医療機関、薬局など)までで生じている変化を調査・分析し、そこで活動を行っているさまざまなプレーヤーにどのような影響を及ぼすのか。さらには、その変化に対してどのような対応策を講ずることが有効なのかなどを研究しています。また、実際に医療関連企業などに對してコンサルティングを行っており、実践的な経営戦略の最新の情報を基に研究を進めています。



教授 木谷 宏

Hiroshi Kitani

■専門分野

人的資源管理論、ダイバーシティ・マネジメント、経営組織

■学歴・職歴

東京大学経済学部経済学科卒業 ジョージ・ワシントン大学大学院公共政策研究科修士課程マークティング専攻修了(MBA) 中央大学大学院総合政策研究科博士後期課程総合政策専攻単位取得退学 博士(経営学、麗澤大学) 食品企業 経営企画部長 学習院大学経済学部特別客員教授 麗澤大学経済学部教授を歴任

■主要著書・論文

『「人事管理論」再考 多様な人材が求める社会的報酬とは』生産性出版、2016年
『ビジネスキャリア検定標準テキスト 人事・人材開発2級』社会保険研究所、2014年(監修)

人事管理論(または人的資源管理論、人材マネジメント論)は経営学において模索を続ける比較的新しい研究領域です。組織の視点による「働きかせ方」と個人の視点による「働き方」を結び付け、変化し続ける社会における「働くこと」の意義とあり方に焦点を当てた研究を行っています。



教授 七田 良彦 Yoshihiko Shichida

■専門分野

ファイナンス、管理会計、経営学、リスク・マネジメント

■学歴・職歴

慶應義塾大学経済学部卒業、三井物産株式会社経理部、米国三井物産株式会社経理部（New York）、物産ナノテク研究所 取締役（在茨城県つくば市）、PT物産オートファイナンス 取締役（在Jakarta）、三井物産エレクトロニクス 常務取締役、三井農林 取締役、サンエイ糖化 取締役 他、青山学院大学非常勤講師、亜細亜大学非常勤講師（兼務）

40年の実務（総合商社：CFO部門）を通じ内外の各拠点（含む子会社）で事業経営の経験を積み重ねました。経営環境の想定外の変化（急速な円高、通貨危機、流動性危機、テロ、大震災等）に直面、その対応策を現場で考え、実践し、一定の成果を上げる、という生きたリスクマネジメントを経験しています。



教授 西田 在賢 Zaiken Nishida

■専門分野

医療経営学（Health Policy, Business and Management）、情報システム応用

■学歴・職歴

東京大学大学院工学系研究科情報工学専門課程修了・修士（工学）。マッキンゼー東京事務所勤務の後、電子カルテのベンチャービジネス起業と日仏合弁会社の経営再建を行った。その後、研究者の道に入り、日本医科大学大学院医療管理学専攻・博士（医学）を取得し、医療経済研究機構研究主幹、東北大学医学部病院管理学助教授、ハーバード大学公衆衛生大学院客員研究员を経て、川崎医療福祉大学、武藏野大学、静岡県立大学の教授を歴任し、2017年に着任してHBMS地域医療経営プロジェクト研究センターを開設し、ヘルスケア分野の専門科目的講義とこの分野に関心のある学生の研究指導を担当しています。

■主要著書・論文

『ソーシャルビジネスとしての医療経営学（新装版）』葉事日報社、2019年（単著）、『災害復興からの介護システム・イノベーション』ミネルヴァ書房、2016年（共著）、『医療経営学からみたケアミックス化の構造と利点』病院 Vol.80 No.10、2021年

わが国ヘルスケアサービス産業の約半分30兆円は病院事業者が関わり、ここでは診療側と事務側を取り持つコミュニケーション能力を高めたπ（パイ）型の医療経営人材が求められており、只今その養成に努めています。



教授 早田 吉伸 Yoshinobu Soda

■専門分野

経営戦略、新事業開発、サービスデザイン、DX（デジタルトランスフォーメーション）

■学歴・職歴

日本電気株式会社（NEC）経営企画本部マネージャー、社会公共ビジネスユニット本部長代理、内閣官房IT総合戦略室主幹 他、博士（システムデザイン・マネジメント学）（慶應義塾大学）、中小企業診断士、地域活性化伝道師（内閣府）、ひろしま環境ビジネス推進協議会会長

■主要著書・論文

『地域イノベーションのためのインクルーシブデザインプロセス』公共コミュニケーション、2020年
『国内外事例分析に基づく日本型フューチャーセンターのデザイン』地域活性研究、2012年 他

イノベーションをテーマに社会システムとビジネスシステムを対象に学際的な研究をしています。理論研究にとどまらず、企業や行政機関での実務経験をもとに、成果の実現や社会実装を目的として実証的に行っています。



教授 百武 ひろ子 Hiroko Hyakutake

■専門分野

合意形成、ソーシャルデザイン、まちづくり、感性哲学

■学歴・職歴

早稲田大学理工学部建築学科卒業、同大学大学院理工学研究科修士課程修了、野村総合研究所研究员を経てハーバード大学デザイン大学院都市デザイン修士修了（MLAUD）、東京工業大学社会理工学研究科価値システム専攻博士課程修了・博士（工学）、一級建築士

■主要著書・論文

『食生活のソーシャルイノベーション』晃洋書房、2020年（共著）、『環境と生命の合意形成マネジメント』東信堂、2017年（共著）他多数

地域課題解決を目的とした市民参加型合意形成プロジェクトの企画・運営の経験をもとに、多様な主体によるコミュニティ運営の開発および合意形成をマネジメントできる人材育成について主に研究を行っています。



教授 露木 真也子 Mayako Tsuyuki

■専門分野

社会イノベーション、社会起業家、社会的企業、地域間比較研究、援助・地域協力

■学歴・職歴

金沢工業大学大学院工学研究科知的創造システム専攻修了・修士（工学）、東京工業大学大学院社会理工学研究科社会工学専攻修了・博士（学術）、特定非営利活動法人国際社会起業サポートセンター理事長

■主要著書・論文

『社会貢献によるビジネス・イノベーション—「CSR」を超えて』丸善出版、2012年（共著）
『社会イノベーションの普及志向』日本地域政策研究、2017年（単著）

未来のありたい姿をインパクト・ゴールとして共有し、一丸となって社会的課題の解決に取り組むための場づくり・枠組みづくりに寄り添いながら、誰一人取り残されない地域共生社会の実現に貢献していきたいと思っています。



教授 毛利 信作 Shinsaku "Sam" Mori

■専門分野

マーケティング、グローバルマネジメント、サプライチェーンマネジメント、アグリカルチャー、トレーディング

■学歴・職歴

早稲田大学政治経済学部政治学科卒業、三菱商事株式会社農産部、Sesmark Foods, Inc. President & CEO（アメリカ）、TH Foods, Inc. President & CEO（アメリカ）、三菱商事株式会社農産部長、同関西支社食料部長、三菱食品株式会社取締役常務執行役員酒類事業本部長、同取締役常務執行役員関西支社長、タイ、ベトナムにて複数の食品会社を立ち上げる。株式会社サラダクラブ、日東富士製粉株式会社等国内外で社外取締役を務めた他、神戸検疫協会会長や関西在流通各社主催の会の幹事も務めた。

■主要著書・論文

『「国際政治論考」 - 国際政治のパラダイム』PAX創刊号、1982年、『タイ国に於ける投資環境』輸入食糧協議報、1988年他

商社及び関連会社での国内外での幅広い実経験と経営の実績に裏打ちされた、学問にとどまらない実践的なビジネスモデルとビジネス・マネジメントに関して掘り下げています。



教授 吉川 成美 Narumi Yoshikawa

■専門分野

農業と持続可能な地域ビジネス、自然資源管理、CSA (Community Supported Agriculture) 食料システム構築

■学歴・職歴

上智大学文学部卒業、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科環境と可能な発展論専攻修了(修士 国際関係学)、東京農業大学大学院農学研究科博士後期課程修了(博士 農業経済学)、西安交通大学公共政策管理学院研究員・講師、早稲田大学教育・総合科学技術院非常勤講師、早稲田大学HNRM研究所客員主任研究員

■主要著書

『食生活のソーシャルインベーション』晃洋書房、2020年(共著)、『クライメート・エンジ』清水弘文堂書房、2018年(監修・共著)、『共生主義宣言』コモンズ出版、2017年(共著)『高畠学』藤原書店、2011年(共著)、『中国の森林再生』御茶ノ水書房、2009年(共著)

修士課程では国際関係学、環境と持続可能な発展論を、また博士課程では農業と食の環境に研究対象を絞り、農業経済学を基盤としました。現在は、環境と持続可能なマネジメント、さらにはレジリエントな経営とは何かを、広く人びとが参加可能なCSA (Community Supported Agriculture) 農業と食の実践から研究しています。



講師 磯貝 日月 Hizuki Isogai

■専門分野

人類学的思考と経営、中小企業マネジメント、出版・編集、環境／民俗分野のフィールドワーク

■学歴・職歴

慶應義塾大学総合政策学部卒業、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科前期博士課程修了、総合研究大学院大学文化科学研究科地域文化学専攻後期博士課程中途退学、早稲田大学教育学部兼任講師、学術出版社代表取締役を経て現職

■主要著書

『アサヒ・エコ・ブックス』アサヒグループホールディングス株式会社／アサヒビール株式会社、2001-2021年(編集発売)、『蒼いお尻のぼくときみ。カナダ極北のイヌイット 内なる心の旅』清水弘文堂書房、2007年(単著)、『ヌナブト イヌイットの国その日その日 テーマ探しの旅』清水弘文堂書房、2001年(単著)他

これまで約20年間、出版実務全般に携わりながら会社経営をしてきました。また人類学のフィールドワーク経験をもとに大学で講義、フィールドワークの設計・引率などの教育活動に携わってきました。経営(おもに中小企業経営およびマネジメント)×人類学(フィールドワーク)の実践的融合を目指しています。



准教授 高橋 陽二 Yoji Takahashi

■専門分野

アントレプレナー、ベンチャー・ファイナンス、コーポレート・ファイナンス、コーポレートガバナンス、アントレプレナーシップ

■学歴・職歴

大阪市立大学商学部商学科卒業、神戸大学大学院経営学研究科市場科学専攻博士課程前期課程修了・修士(商学)、同後期課程修了・博士(商学)、岐阜聖徳学園大学経済情報学部専任講師・准教授、米国ハワイ大学マノア校シドラー・ビジネススクール客員研究員

■主要著書

『知識の基盤になるファイナンス』中央経済社、2018年(共著)、『オープン・イノベーションのマネジメント』有斐閣、2015年(共著)

創業して企業が成長する過程のファイナンス(資金の調達、投資)について実証的に研究しています。とりわけ、ベンチャーキャピタル(VC)、新規株式公開(IPO)を主要な分析対象としています。企業の成長過程で生じる様々な課題を研究対象とし、多面的なアプローチで実証的に分析しています。



准教授 土本 康生 Yasuo Tsuchimoto

■専門分野

インターネット、情報セキュリティ、オンライン教育、ICT×ビジネス、国際化

■学歴・職歴

博士(政策・メディア)(慶應義塾大学)、慶應義塾大学 政策・メディア研究科 特別研究講師、Asian Institute of Technology (Thailand) Visiting Assistant Professor、東京大学 情報理工学研究科／工学部 国際工学教育推進機構 特任講師、横浜商科大学商学部経営情報学科 准教授

■主要著書・論文

『入門SNMP』オライリージャパン(監訳)、『TCP/IPネットワーク管理』オライリージャパン(監訳)、『インターネットの普及を目的としたネットワーク管理者育成モデルに関する研究』慶應義塾大学博士論文、『インセンティブ提示型デジタルデバイド解決手法の提案と実施』電子情報通信学会(共著)、『Bandwidth Adjustable DVTs on the Heterogeneous Internet Environments for Distance Learning』SAINT(共著)

今後も社会を変える基本技術としてインターネットが存在し発展し続ける中、インターネットに関する研究を工学に限らず教育学や経営学、社会学など学際的な文脈で語ることで幅広く社会に貢献していくことを、身の回りのあらゆるモノやコトを、インターネットを利用してどのように活性化し、新たなサービスや仕組みを作っていくかを皆さんと一緒に研究していきたいと考えています。

地域貢献

2021世界平和経済人会議ひろしま

HBMSは、経営学と平和学を融合させた社会課題解決型の経営マネジメント手法を新たに取り入れ、世界で活躍するリーダーを育成することを目的とし、2020年8月にコスタリカ共和国・平和大学(UPEACE)と協定を締結。2021年9月、「2021世界平和経済人会議ひろしま」に登壇し、社会との共生を目指すサステナブルな企業経営による新しい社会システム構築についてセッションを行った。



HBMS地域医療経営研究センター

医療経営学(Health Policy, Business and Management)の視座から、国による社会保障の重要政策、医療介護総合確保推進に関する研究を行う。その成果をもって広島県をはじめとする全国における医療介護総合確保推進のための制度・政策や事業経営の管理にあたる人材養成の実践につなげる。2021年より、文部科学省認定(BP)「病院経営持続性を高める医療経営人材養成プログラム」を実施。



防災社会システム・デザイン 研究センター

「防災マーケティング」、「防災・減災予測情報システム研究」、「防災のための災害弱者研究」を柱とした社会科学・行動科学系の実践的防災研究・教育を行う。社会システム・デザイン・アプローチから「防災ビジネス&マネジメント・モデル」を構築。三原市の連携協議会「市民避難行動促進『三原スタイル』構築連携協議会」、その他企業のアドバイザーも行う。



- 備後地域次世代ビジネスリーダー養成講座(文部科学省認定BPプログラム・福山市連携講座)
- アグリ・フードマネジメント講座(広島県連携講座)
- 竹原地域次世代ビジネスリーダー養成講座 憧憬未来塾(竹原市連携講座)
- スタートアップ創出シティカレッジ(三原市連携講座)

在学生・修了生インタビュー

※学年・所属先については、令和3年11月末時点での情報です。

林 義之さん HBMS 2年生 株式会社八天堂 取締役常務

同期との農福連携事業で新たな商品も開発



三原市とHBMSが連携して行っていた地域人材塾「浮城塾」の1期生として学んだ経験があり、その後HBMSの先生から声をかけていただいたのが志望のきっかけです。ちょうど弊社の新規事業として、農福連携をキーワードとしたビジネスモデル化の必要性を感じており、このテーマを元に、学びとコネクションを築きたいと考えていました。基本的に農福連携ビジネスに関連すると思われる科目を中心に履修してきたので、そこで得たアカデミックな知識をビジネスのアイデアに繋げることができます。学ぶ習慣やタイムマネジメント、思考方法もより深まりました。人とご縁も大きく、HBMSで出会ったパートナーと、竹原市のぶどう園で農福連携の取り組みを立ち上げ、そこで育てられたぶどうを使った新たな商品も開発しました。それをどうやってプランディングし告知をするなど、まさにこれから大学院で学んだ知識を活かしていくことが楽しみもあります。また、副次的な効果として、父親である私が自宅で勉強している姿を見た子どもたちが、自ら勉強するようになったことも嬉しい変化です。

太刀掛 理恵さん HBMS 2年生 株式会社広島銀行 船舶ファイナンス部

変わりゆく造船海運業に他業種の取り組み提案

広島銀行に入行して15年が経ちました。そのうち約10年間、銀行業務を通じて瀬戸内の基幹産業である造船海運業の発展に向けて取り組んできました。近年、造船海運業は外部環境が大きく変化しており、多様化するニーズにいかに応えていけるかが、今後のポイントになるとを考えています。そのような中、様々な経営課題を抱えている取引先にとって、寄り添えるパートナーになるため、様々な知識や実践力を身に付けたいと思いHBMSへ入学しました。HBMSでは、他業種で取り組まれているデジタル化や事務の効率化等を学び、得た知識を造船海運業の取引先への提案に繋げることができます。ひろぎんホールディングスは「お客様に寄り添い、信頼される〈地域総合サービスグループ〉として、地域社会の豊かな未来の創造に貢献します」を経営ビジョンとして掲げていますので、グループ会社である広島銀行の中で新しいチャレンジしながら、地域社会に貢献できるようになります。何事にも臆することなく、しっかりと自分の意思を持ち、積極的に行動することで、どんどん違う世界を開けていくやりがいを、今までに感じています。

伊藤 大悟さん HBMS 2年生 社会福祉法人 宗越福祉会 理事

民間企業と力合わせ 誰も取り残さない環境作り



20歳の頃恩師にMBA取得を勧められたのですが、福祉関係者は縁遠いと当時は思っていました。その後、2013年から法人運営に携わるようになり、経営の難しさを痛感。福祉にも経営力が必要と考え、広島でもMBA取得ができると分かりHBMSにエントリーしました。入学して1年半、私の中で「No one left behind(誰一人として取り残さない)」というキーワードが大きな学びの一つになっています。福祉においてもこぼれ落ちていく人はいます。そこで誰も取り残さない環境を作り、ソーシャルビジネスとして持続していくには、市町村との連携や民間企業の力が必要だと学びました。そして、それは実現できるのだということを実感できました。HBMSで学びながら、ここで出会った同級生と農福連携事業を起させたことも、大きな成果です。また、コロナ禍においてオンライン1期生として始まった中、先生方は試行錯誤をしながら教えてくださっています。オンラインのメリットとして、遠方からでも授業に参加しやすい、打ち合わせや交流が簡単にできるなど、良い面がたくさんあり、時間調整がしやすい分、家族の理解も得やすくなつたと思います。

新本 知子さん HBMS 1年生 地方独立行政法人 広島市立病院機構 広島市立広島市民病院 看護部

看護を可視化 イノベーションを生み出す



私は、2015年に看護師長に昇進し、看護管理を実践してきました。昨今、病院経営を意識した実践が強く求められるようになったと強く感じています。医療・看護の世界だけでなく、もっと視野を広げ、異業種の方との交流や経営のノウハウを直に学べる場所がないかを模索していたところHBMSの存在を知り、「これだ!」と思いました。私は30年間、医療・看護一筋で医療の世界しか知りません。まだ、2クオーターしか終わっていますが、全てが新鮮でどの科目も多くの学びに溢れています。将来的には看護を可視化したいと考えているので、新たな風を吹き込むためにも、利害関係者を説得する力が必要。HBMSは異業種の集まりであり、そういった医療を知らない人へ向けての分かりやすくかつ説得力のあるプレゼンをしていく能力や、資料のまとめ方はとても勉強になっています。仕事でもプレゼンをする機会が多く、誰が見ても理解できることを意識した資料作りに取り組むようになりました。職場からのサポートや周囲の方からの応援に助けられている分、HBMSでの学びを還元できるよう尽力していきたいです。

松本 優さん HBMS 1年生 株式会社ムラカワ 業務部 兼 品質保証課 課長

学びを塗装業界の地位向上に活かしたい

塗装会社で、お客様と現場の橋渡しをする業務部と、品質向上の取り組みを行う品質保証課での仕事を兼任しています。数年前からは、会社の経営戦略策定にも参加するようになりました。もっと幅広い知識が必要だと感じていました。そんな時、HBMSの4期生でもある弊社社長に背中を押してもらい、入学を決めました。授業では、アカウンティング、ファシリテーション、経営戦略、人的資源管理など、どれも日頃の仕事に身近で実務に直結する内容を研究しています。大人になり社会に出ると、なかなかゼロベースで学び直しができる機会はありませんが、HBMSで学ぶことで毎日がとても充実しており、修了後もこの学ぶ姿勢と習慣は持ち続けたいと思っています。弊社は「塗装の問題を解決する」という経営理念があり、塗装そのものだけではなく、塗装に関連するあらゆることの問題解決にも力を入れています。まだ構想段階ですが、AIなどを組み合わせた新規事業に注目することで、塗装業界の技術や品質向上に寄与し、塗装業界の地位を高めることに繋げていけたらと考えています。日本一の塗装会社へと発展するべく、身につけたスキルを活かしていきたいです。



井上 多恵さん HBMS 1年生 株式会社ジェイ・エム・エス 薬事・品質保証本部 薬事室 管理職

支援行動取り入れ 職場の信頼関係を構築



総合医療機器メーカーで責任を持つ立場を任され、リーダーシップと事業戦略の専門的な知識や、会社の力を最大限に活かす方法論を実践で学びたいと思っていたなか、会社の卒業生からふとしたきっかけでHBMSを紹介してもらいました。まだ入学して半年しか経っていないのですが、よい影響をたくさん受けていると実感しています。例えば、以前は会議をできるだけ早く終わらせるのに注力していましたが、今はみんなの意見を吸い上げ、どんな意見も拾うことを大切にしています。会社の同僚、後輩ともファシリテーション技術を共有しワークショップを開催することで、お互いの信頼関係の構築や意識改革にも繋がりました。ビジネスの場でも活躍されていた先生方のアドバイスは、専門知識だけでなく、実践で活かせる授業であり、とても心に響いています。そういう先生方に出会えたことは、私の財産。今後は、私自身の強みを見出して、会社の利益性を考慮した戦略提案、広島出身の優秀な人材確保、そしてHBMS卒業生を講師にしたネットワーク起業など、新しい目標を掲げていきたいです。

在学生・修了生インタビュー

※所属先については、令和3年11月末時点での情報です。

吉原 亜矢子さん HBMS 1期生 株式会社レガーレ エグゼクティブマネジャー

海外現地調査をきっかけにグローバルビジネスへ



本学では、新しいことに挑戦することで自分が成長できる新たな道が開けるのではないか?という期待と、経営の勉強をしておけば将来的に自分がやりたいことを見つけた時に選択肢が広がるのではないか?という想いで応募しました。在学中は広告代理店に勤めていましたが、研究の一環として海外現地調査へ行く機会があり、それがグローバルビジネスへ踏み出すきっかけに。現在では、日本企業の海外進出を支援する会社にキャリアチェンジしました。HBMSで最も良かったことは、同期生と利害関係のない家族のような関係性を築けたこと。年齢も会社も役職も関係なく、個人を尊重しながら、お互いの意見を率直にぶつけ合えるようになりました。修了後4年が経った現在でもそのネットワークは健在で、ビジネスと一緒にしたり、影響を与え合ったりしています。また、仕事は本来もっと自由で無限で楽しいものであると気付き、失敗を恐れず何事にもチャレンジする勢いがさらに増しました。

石原 かおりさん HBMS 3期生 株式会社 Happy relations 代表取締役
一般社団法人ソーシャルケアビューティー 理事

美容業界にもマーケティングの必要性を実感

美容室をメインとしたコンサルティングの会社で代表を務めています。起業してから勘と経験と体力任せで事業を進めていましたが、顧客に対して最先端のサービスを提供するには、自分自身がもっと学ぶ必要があると感じていました。HBMSで学んだことで、ビッグデータではない地域に根ざしたデータを取ることの大切さを知り、改めて美容業界にもマーケティングは必要だと感じています。自分で考え、実践して、検証することをできるだけ早く回すこと(PDS)を自然とできるようになりました。コモンズやSDGsなど、これまで漠然と分かったような気になっていたことを、掘り返して教わることができたのも私にとって収穫だったと思います。私の仕事は美容室の営業後の時間帯や土・日曜に及ぶこともあったため、初めは仕事と学業の調整が難しかったですが、これまでやっていた業務を人に任せると、タイムアップするかの二択で整理しました。今では在学中に行っていた時間のやりくりを継続し、基本的に土・日曜は休みに。仕事のスタイルを見直すよききっかけにもなったと思っています。

松原 一樹さん HBMS 3期生 広島県商工労働局 海外ビジネス課 主査

即効性ある実践スキルを取り入れ実務が向上



前職の上司が2人連続でMBAホルダーだったので、彼らの仕事の進め方がそれまでのやり方と全く異なることに驚きました。非常に論理的に仕事の順序を組み立てる姿に憧れ、それからMBA取得が私の目標になりました。その後、転職して広島県庁の職員になり、中小企業の海外展開支援をする部署に配属されたことで、今までの仕事に比べて経営者と話しをする場面が格段に増え、力不足を実感。以前の上司のように物事をもっと論理的に考えられるようになれば、今の仕事にも役に立つかもしれない、HBMSの体験授業を受けに行きました。実際に入学してみると、すぐに職場で使える即効性のある実践スキルも多く、「実務に役に立っている」と感じながら2年間学ぶことができました。また、広島を拠点としている人たちが集まっているということも大きなメリット。困った時、すぐ会いに行ける距離に相談できる仲間がたくさんできることは、本当に心強いです。文字通り、同じ釜の飯を食べて同じ体験をしているので、その中で培われた絆というのは、とても強いものだと感じています。

岡崎 修司さん HBMS 4期生 株式会社広島ドラゴンフライズ ゼネラルマネージャー 薬剤師

引退するアスリートのロールモデルを目指して



広島で4年間プロバスケットボール選手としてプレーした後、2018年に引退しました。引退後は、現役中に取得した薬剤師の資格を活かした医療関係の会社の立ち上げと、球団の運営に関わってきました。がむしゃらに仕事をする中で、経営について分からぬことも非常に多く、MBAを取得することで体系的に学びたいと考えていました。そんな時にHBMSの存在を知り、自分の成長に繋がるのはもちろん、引退するアスリートのロールモデルにもなり得るのではないかと考え、決断しました。HBMSで経営管理の基本的な知識が身に付いただけでなく、現場で起こっている事象を形式化して認知し、課題を見つけ、解決策を考えるといった一連の思考を構造化して考えられるようになつたことは私の中でとても大きかったです。この春からは球団のゼネラルマネージャーに就任したので、球団運営における課題解決に向けて今後も尽力していきたいと思っています。また並行して、在学中に自分の会社で開始したM&Aによる事業買収と運営にも、ここで学んだことをしっかりと活かしていきます。

前田 裕生さん HBMS 4期生 株式会社ミライワーカー 代表取締役
SDMS(精神障害のためのダイバーシティ・マネジメント SECTION)実行委員会 実行委員長

仲間に助けられて 社会課題解決に向けて起業

以前は保険会社に勤めており、地域企業と連携して保険を軸にした新事業を創出するための知識やノウハウを得たかったのが入学のきっかけです。私が感じる最大の価値は、HBMSで学んだ共通言語を共有する様々なビジネスパートナーと出会ったことです。ベンチャービジネスを考える授業をきっかけに、1年次のカリキュラムや仲間とのディスカッションを通じてビジネスプランを磨き、在学中に起業しました。業務内容は、メンタル不調で会社を休んだり、辞めたり、社会から遠ざかっている人に向けての復帰支援を行っています。それまでずっと保険ではカバーできない、保険のその先にある社会問題を解決する策を探していましたが、別に保険会社にこだわらなくていいんだなと。そう気付けたのも、HBMSで多様な価値観と生き方があることを学び、改めて自分の人生を見直すことができたからだと思います。私のように転勤で広島に来た人が、HBMSで新たな夢を見つける…そんな人がたくさん集まれば、広島がもっと面白くなりそうですよね。HBMSが気持ちのある人材が集まり縁が繋がるプラットフォームになるように、OBとしても協力ていきたいです。



登 景子さん HBMS 4期生 株式会社ケン・リース FROM EATS PR担当

学びやスキル活かし 地域経済の循環を形に



現在はフリーランスの立場で、FROM EATSという事業の立ち上げに参画しています。FROM EATSは「食でまちを笑顔に!」をスローガンに掲げた、つくる人(生産者・飲食店)と、私たち食べる人(消費者)との繋がりをより豊かにすることを目指したプロジェクトです。HBMSのゼミ仲間が研究の一環として取り組みながら進めていた中で発案して立ち上げた事業です。現在は、地元野菜の定期便を軸にテストマーケティングをしながら、サービス開始に向けて準備中。ブランドをつくりあげていく段階なので、まさにマーケティングの授業で学んだことを実践しながら、改めて学び直しをしています。在学中には異業種の同期たちから多くの刺激を受け、講義やゼミでの学びを通じて、今いる場所で自分が目指したいものが明確になりました。「心が豊かになる地域経済の循環をつくりたい」という想いを共有する仲間に出会えて、FROM EATSの事業に参画できたのも全てHBMSがあったからこそ。授業時間以外に自宅で課題に取り組む時間も多かつたので、サポートしてくれた家族にも感謝しています。

HBMS 座談会

※学年・所属先については、令和3年11月末時点での情報です。

※座談会は新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した上で実施しています。



磯貝 日月
県立広島大学大学院
経営管理研究科
講師

岩下 三希さん
HBMS 1年生
全日本空輸株式会社
客室センター客室乗務3部
客室乗務員

松本 明子さん
HBMS 1年生
松本社会保険労務士事務所
所長

小林 靖孟さん
HBMS 2年生
広島大学大学院 医系科学研究科
救急集中治療医学教室 所属、
救急科専門医

スバラマニ・ブニタフェルさん
HBMS 2年生
日本タタ・コンサルタンシー・サービス
(日本TCS)
ビジネスリレーションシップマネージャー

異なる業種の仲間たちからの発見と刺激 新しいアイデアや成長につながる2年間

ビジネスの基礎知識を体系的に学習
MBA取得でキャリアアップ目指す

磯貝 皆さんの入学のきっかけは?

松本 HBMSができたときに同業の友人から一緒に大学院で学ばない?と誘われて興味を抱いたのですが、その時はまだ子育てにも手が掛かり、事務所も1人体制だったので断念。いつかはと思いながら、事務所の体制を整えスタッフを育て、自分の時間を作る準備をしてきました。今春、上の子が大学生になったことで子育てが一段落し、この先の自分の人生をどう生きるかを考えるようになって…。社労士としてもっとステップアップし、経営者の抱える問題に幅広い知識で役立てるようになりたいと思い、学びを決意しました。



小林 私は、医師として中堅に差し掛かり、部門のリーダーや指導的立場を任されることが増えてきました。しかし人的・物的資源のマネジメント、ネゴシエーション、組織管理という局面で、自らの力量不足を実感。そうした状況を打開すべく解決策や勉強すべきテーマを探していたところ、欧米において「医師+MBA」が徐々に広まっていることを知りました。日本ではまだ認知度は低いものの、医療費高騰や人員不足などビジネス的な問題点を多く抱える医療業界に対して、「医師+MBA」は社会的価値の高い組合せではないかと感じたのがきっかけです。



岩下 入学の動機は2つあります。1つ目は、現在私は全日本空輸株式会社の客室乗務員として従事していますが、将来的

に広島で航空業界を目指す人たちの就労支援や、感情労働従事者へのサポートを行いたいと考えているからです。HBMSでは、事業内容をより具現化していくために入学を決意しました。2つ目は、自身のビジネス知識の欠如に危機感を抱いたからです。私の職種は専門職です。また、新卒で今の会社に入社したので他の業種・職種のことは全く分かりません。一生、客室乗務員として働くならそれでいいのかもしれません、私は入社前から「いずれは起業を」と考えていたので、体系的にビジネスの基本的な知識から実践まで学べるのはHBMSだと思ったからです。

ブニタフェル 私が働いているのは、グローバルで展開するインドのITソリューション企業のタタ・コンサルタンシー・サービスと日本の三菱商事の合弁会社です。5年前に来日したのですが、日本においてビジネスで成功するには、日本の文化に精通する必要があると感じました。本で文化を学び、日本語の学習もしましたが、それでもまだ埋められない部分がたくさんあるのです。そこで、日本の教育機関でMBAを取得しようと決意し、HBMSにたどり着きました。

コロナ禍の影響により空き時間も充実した忙しさが張り合いで

磯貝 入学前と入学後の生活の変化は?

松本 授業は土曜日と平日18時30分から21時30分までなので、入学前の体制作りで乗り切れると思っていたが、入学した頃からコロナの影響により仕事が忙しくなり、想像以上の課題の量に最初の頃は寝る時間がほとんど取れなくなって自分の限界を超ました。

磯貝 どうやって乗り切ったんですか?

松本 家事で省略できることは何かを考え、最新家電のフル活用と家事代行のサポートなどを取り入れました。育休中に社労士の資格を取り、下の子が4ヶ月の時に独立開業して、これまでも仕事と家事・育児の両立を何とかしてきたので、家事・子育ての時間が空いた分できるはずと自らを奮起させながら頑張っています。応援してくれる家族の支えと協力は大きいですね。コロナ禍でzoom授業が増え、通学時間が減り、会食する機会も減ったので、その時間を勉強に充てています。その点では今が学びのチャンスだと思っています。

岩下 私は逆に、昨年は新型コロナウイルスの影響でフライトがほとんどなくなり、忙しい方が好きなのでもどかしい気持ちで過ごしていましたが、入学のための準備に時間が取れたので良いタイミングだったのかもしれません。入学後は、レポートやグループワーク、プレゼンテーションの準備など夜遅くまで課題に追われることが多かったのですが、大学生の時以来のことが多くとても新鮮で…。「忙しいけど充実している」という状況が幸せです。

職場などでリーダーシップを發揮
広い視野で業務に携わることができる

磯貝 働きながら学ぶことのメリットは?



小林 医師は職人のような技能を求められる専門職。現場に立ち続けることで、技

能やそれを支える感覚を維持することが重要だと考えています。その中で、職人は職人同士で競争して一番を目指しがちなのですが、学びによって視野を広げることにより、職人の技能を社会的価値へと上手に変換できるようになるのではないかでしょうか。学ぶことのメリットはまさにそこにあります。技能の維持はどうしても必要なで働きながら学ぶという両立が重要なとりますが、専門職こそ、働きながら学ぶことのメリットは大きいように思います。

ブニタフェル ビジネスにおいては、多くの人が何故そのことをしているのかわからないままに行うグレーな領域が多くあります。仕事と勉強を両立することで、従事するビジネスをマクロとミクロの両方の観点から捉えることができます。MBAは実践スキルであり、どんなに理論を学んでも、実際の状況で実践しない限り真の意味での要点はつかめないと思います。



磯貝 どんなことを実践してみましたか?

ブニタフェル 例えば、リーダーシップとは誰もが知っている資質のことですが、独裁的、権威的など様々なリーダーシップスタイルを学べば、自分のチームで最大効果を得るスタイルを適切に展開することができます。私自身もHBMSに通い出してから、家族にも職場の仲間にも、「この人の決定案なら間違いないだろう」という信頼感をより持てもらえるようになりました。

岩下 私の職種は専門職なので、HBMSで学び、すぐに実務で…とはいかないのですが、授業で習った知識をもとに会社のことを見つめ直す機会ができます。例えば、アカウンティングの授業では、財務諸表を習いますが、今まででは弊社の財務諸表の数字を「ただの数字」でしか見られませんでした。しかし、今はこういう背景が

あって、こういう現状が数値化されていると「数字のその先のバックグラウンド」が見えます。HBMSに入学していなかつたら、体感できなかった変化だと思います。



個性豊かで知識も豊富な仲間との縁
広島での活躍に役立つながり実感

磯貝 HBMSでの出会いについてはどう感じますか?

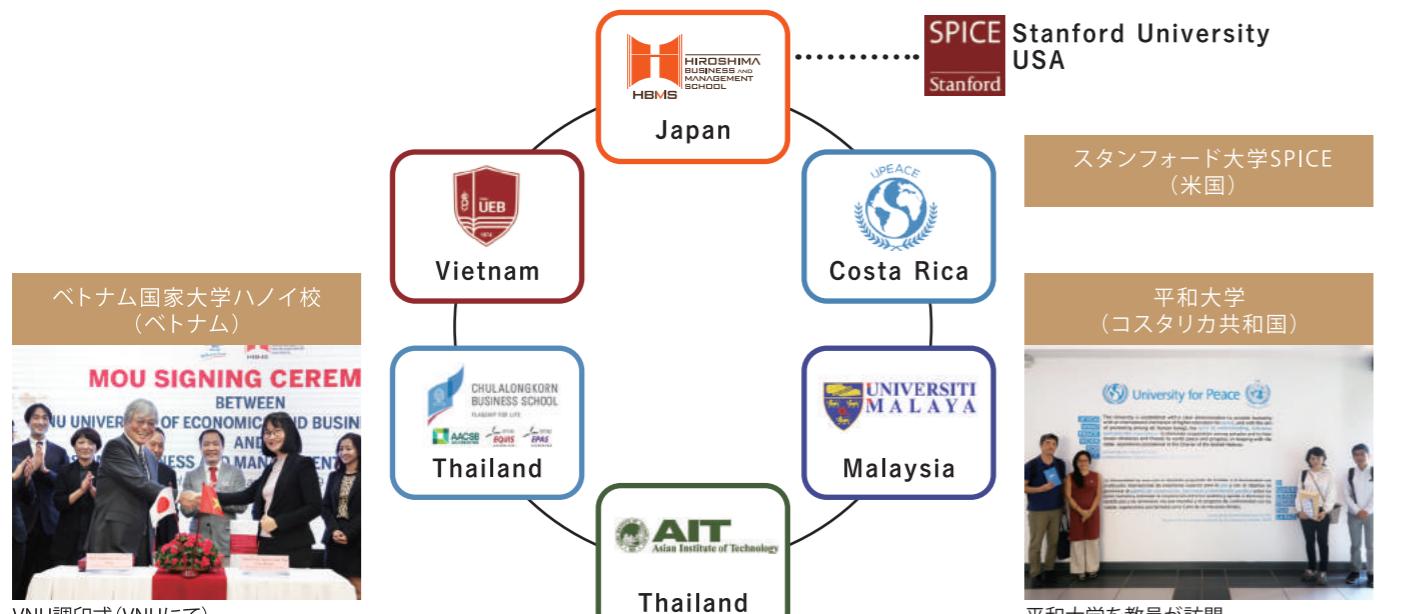
松本 多様な職種、経験も異なる仲間、大学院でなければ縁がなかった方達との出会いは本当に刺激的です。皆さん個性豊かで専門知識が豊富なので、同期から学ぶことも本当に多いです。課題の進捗を報告したり、励ましたり、仲間の存在がとても支えになっていますし、グループワークと一緒にする中で「こんな考え方もあるんだ」と驚くとともに、自分の視野の狭さを思い知ることもあります。それ目標を持って広島の地で活躍する一生の仲間を得た喜びは大きいですね。

小林 私は、将来的に活躍する土地は生まれ育った広島でありたいと考えており、公的病院の救急部門長として広島の地域医療に貢献することがおよそ20年後の目標です。そのため、広島で活躍する同期や先輩・後輩、先生方とつながりを得られるのもHBMSの魅力の一つでした。ちなみに、私は5期生のですが、新型コロナウイルスの影響なのか、4期生との接点が非常に少なかったのが残念でもあり後悔もあります。今後はHBMSの縦つながりを整備することにも少しづつ注力していかなければと思います。状況が落ち着けば開催したい企画もたくさんあるので、在学中も卒業後も、仲間と一緒に色々な取り組んでいきたいですね。

国際交流

HBMSでは、国際的な視野を持って活躍できる人材の育成を図るとともに、MBA教育プログラムの卓越化に取り組むため、海外先進大学との連携強化を図っています。

HBMSの国際交流協定締結校は、4か国5大学



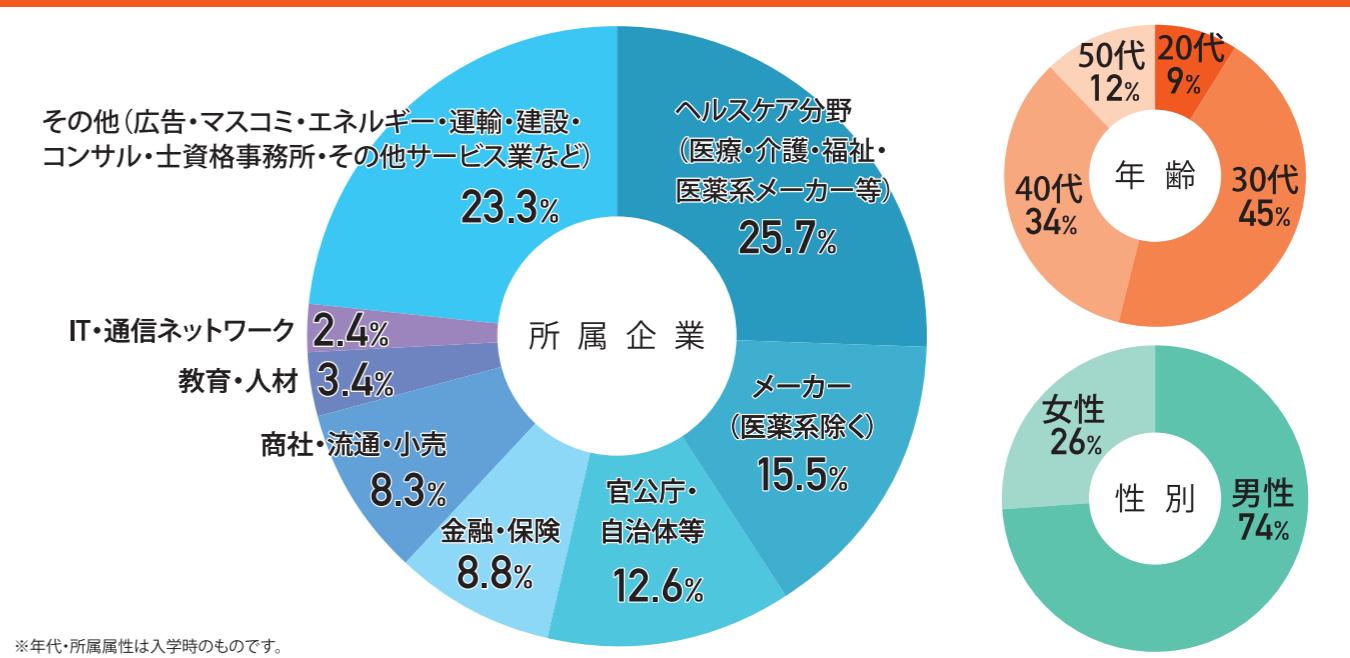
HBMS COMMUNITY
(県立広島大学MBA同窓会)



HBMS COMMUNITY 会長
桝原 茂さん
HBMS 2期生
広島市役所(水道局財務担当部長)



HBMS DATA 〈学生・修了生のプロフィール〉 HBMSでは様々な業種、年齢の学生が学んでいます。



HBMSに学生を派遣する企業の声

※以下の情報は一部変更の可能性があります。

HBMSでは、企業、自治体、その他組織から派遣される社会人学生を広く受け入れています。2年間HBMSで学んだ「人材」は、組織にとって貴重な「人財」となります。スキル人材の育成・訓練で成果を上げるために、「知識」「技能」「知恵」の三要素をすべて訓練する必要があります。HBMSに社員・職員を派遣することで、ビジネス・リーダーを育成することができます。

HBMSは地域活性化のプラットフォーム



株式会社ひろぎんホールディングス
代表取締役社長
鈴谷 俊雄さん

当社グループの広島銀行では、HBMSが開設された2016年から、隔年で行員を派遣しています。派遣の目的は、将来の幹部候補生を養成するにあたり、経営のベースとなる戦略、あるいは論理的思考を身に着けることです。海外や国内のMBAもありますが、HBMSは地域に根差しているということが、地元広島の地方銀行にとって魅力的です。現在在籍している2名を含めた6名を派遣したのですが、修了した4名は、地方創生に関わる業務、企業の事業性評価に関わる業務、あるいは個人の方々の相続のサポートをする業務に携わっており、地域のお客様のことを思い、しっかりと対応をしてくれています。今後、HBMSには、広島の各企業で働いている方、経営者の方々など、多様な学生が多く学ぶことにより、そこでネットワークを作り、広島が活性化するような事業、あるいは新しい試みも含めて積極的にチャレンジしていただけるようなプラットフォームを作つてほしいと思っています。HBMSで学んだ人材が我々グループを引っ張つてもらうと同時に、地域を活性化してくれることを望んでいます。

「企業・自治体派遣」について

企業・自治体派遣(※)にて、社員・職員の受験を希望される派遣企業・自治体のご担当者様は、

令和4年11月24日(木)～12月14日(水)の間に事前の申請が必要となります。

HBMS ウェブサイトの「入試情報」のフォームから必要事項をご入力ください。フォームは令和4年11月24日(木)に公開します。

※「企業・自治体派遣」には、社団法人・財団法人・NPO法人等の各種法人、法定団体等を含みます。

企業・自治体派遣での出願は下記の要件を全て満たす必要があります

- ① 企業・自治体に派遣制度があること。派遣制度がない場合は派遣制度を作る、又は作る予定があること。
- ② 被派遣者の選定において選抜基準があること。
- ③ 企業・自治体は、派遣した学生が学業に専念できるよう支援すると共に、必要に応じて業務の調整を行うなどの配慮をすること。

HBMS概要

(入学料・授業料は現行の額です。この額は改訂されることがあります)

研究科・専攻の名称	経営管理研究科 ビジネス・リーダーシップ専攻		授業時間	平日 18:30～21:30 (2時間) 土曜日 9:00～19:30 (6時間)
学位名称	経営修士(専門職) Master of Business Administration (MBA)		修了要件単位数	34単位(修士論文の提出不要)
入学定員	25人		専任教員	11人(令和4年6月時点)
標準修業年限	2年		入試時期	2月
入学料	県内の者	282,000円	授業料	年額 535,800円(半期 267,900円)
	県外の者	394,800円		

入学試験の概要

募集人数	25人*	
選抜区分	オープン入試	企業・自治体派遣
選抜方法	一次選抜	書類審査
	二次選抜	選抜課題、口述試験

*オープン入試、企業・自治体派遣より、合わせて25名を募集します

主要日程

選抜課題 公表	令和4年11月24日(木)頃
企業・自治体派遣 事前申請 ^{※1}	令和4年11月24日(木)～12月14日(水)
出願資格審査 ^{※2}	令和4年12月1日(木)～12月14日(水)
出願期間	令和5年1月6日(金)～1月19日(木)
一次選抜結果通知	令和5年1月27日(金)頃
二次選抜試験日	令和5年2月4日(土)・5日(日)
合格発表	令和5年2月13日(月)
入学手続	令和5年2月14日(火)～2月24日(金)

※1 企業・自治体派遣にて社員・職員の受験を希望される派遣企業・自治体のご担当者様は事前の申請が必要となります。令和4年11月24日(木)に公開するフォームから事前申請が必要となります。詳細は募集要項をご覧ください

※2 出願資格によっては、出願前に別途出願資格審査が必要です。詳細は募集要項をご覧ください

入試結果

選抜区分	入学定員	志願者数	志願倍率	一次選抜 合格者数	二次選抜				入学者数
					受験者数	受験倍率	合格者数	合格倍率	
企業・自治体派遣	25	54	2.2	51	51	2.0	31	1.6	31